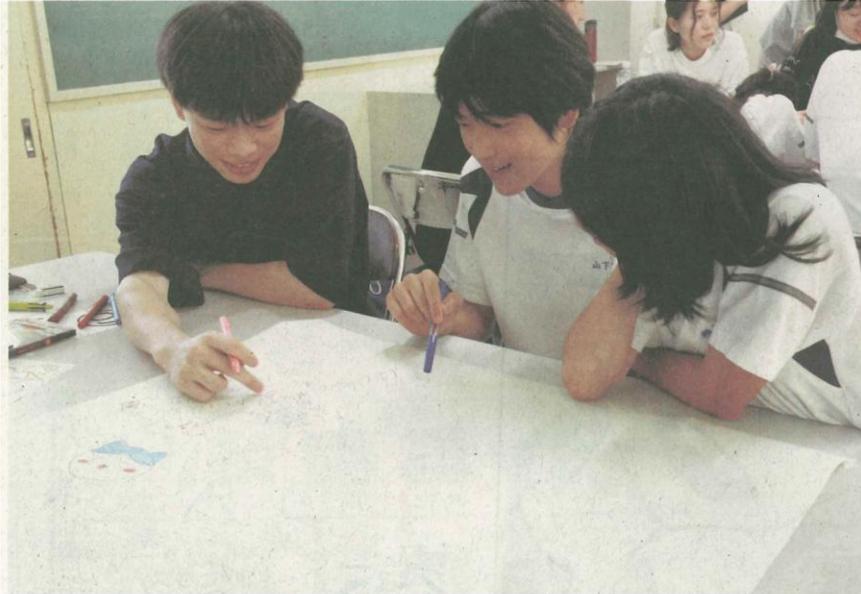


デーリー東北
2025年(令和7年)7月8日(火曜日) (10)

八戸第二養護学校、来年60周年 学校マスコット制作へ



青森県立八戸第二養護学校(小笠原雅和校長)の児童、生徒28人が3日、学校のマスコットキャラクターを制作する活動を行った。子どもたちは、八戸工業大の学生とともに好きなキャラクターのイラストを描いたり、キーワードを出し合ったりして、どんなキャラクターにしたいかイメージを膨らませた。

(回屋敷萌)

大学生と一緒に学校のマスコットキャラクターについて考える子どもたち

児童生徒がアイデア、八工大生協力

マスコットキャラクターの制作は、学校や地域の良さに気付き愛着や関心を深める機会を創出するとともに、来年迎える60周年に花を添えることが目的。

制作には同大感性デザイン学部の学生も協力。同日は2年生33人が同校を訪れ、子どもたちと一緒に活動した。

子どもたちは大学生と交流しながら、大きな模造紙に好きなキャラクターや動物のイラストを描いたり、「かっこいい」「おしゃれ」などキーワードを書き出したりした。その後、班ごとに成果を発表。「ウサギや猫などの動物をモチーフにしたい」「カラフルにして星やハートを入れたい」などのアイデアが出た。

同校中学部3年の馬場奏汰さん(14)は「学校の近くには木が多いので、木とリンゴをモチーフにしたキャラクターを描いた。選ばれたらうれしい」と笑顔。同大感性デザイン学部2年の七戸裕太さん(20)は「始めは子どもたちの名前しか知らなくて不安もあったが、活動する内に心を開いてくれたのがうれしかった」と話した。

両校は、今後複数回に渡って共同で活動し、今年12月をめどにキャラクターを完成させる。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。